

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ・表現領域の3分野の関連を図った題材構成を考える過程で、音楽の縦と横の関係についての理解が深まり、どのような場面で、どのような指導を行えばよいのかが明らかになりました。また、そのことにより、音楽の縦と横の関係について段階的な指導ができる指導計画を作成することができました。
- ・聴き取り、感じ取ったことを表現に生かす指導方法を探ることで、中央教育審議会が取りまとめた「幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別添資料」で示された「音楽科、芸術科(音楽)における学習過程のイメージ」について理解を深めることができました。また、このことを基に、音楽の縦と横の関係を聴き取り、感じ取ったことを表現に生かすための発問を工夫したことで、学習過程の具現化を図る指導方法について理解を深めることができました。
- ・授業実践後は、「音楽の縦と横の関係が分かる」と回答した児童の割合が6%から82%に増加しました。また、「音楽の縦と横の関係を音楽活動に生かしていきたい」と考えた児童の割合は36%から98%に増加しました。このことにより、題材構成の工夫と発問の工夫をしたことで、児童は、音楽の縦と横の関係についての理解を深め、それらが生み出すよさや面白さ、美しさなどを感じ取って、表現に生かしていこうとする意欲をもつようになったと考えます。

(2) 今後の課題

- ・授業実践後も、「音楽の縦と横の関係が分からない」と回答した児童が18%見られることから、児童にとって、音楽の縦と横の関係を聴き取り、感じ取ることは大変難しいことだと考えられます。本研究で取り組んだような工夫だけでなく、音楽遊びをしたり、既習内容を振り返らせたりしながら継続的に指導し、それらの力を育成していく必要があると考えます。
- ・音楽の縦と横の関係を聴き取る力や表現する力には、個人差が大きく見られました。「音楽の縦と横の関係」を取り上げて指導する際には、児童の実態を把握した上で、ペアやグループ編成を工夫し、個人差に十分対応できるよう配慮する必要があります。また、個別の支援を充実させる必要があります。さらに、聴き取り、感じ取る力や表現する力が優れている児童が発展的な学習に取り組むことができるように指導を工夫する必要があります。
- ・聴き取り、感じ取ったことを表現に生かす学習過程を繰り返していく中で、今後は更に、教師の発問によって学習過程の流れができるのではなく、児童が自らで学習過程を具現化できるような力を身に付けさせていく必要があると考えます。